

# 明日へ 四国の視点

(159)

高知県の中土佐町久礼から海岸線に沿って須崎市安和に至る延長9.1kmの道路があったが、現在は国道56号であったが、現在は国道320号久礼須崎線と

「高知国道56号落石事件」の舞台になった所としても有名な昭38年に落石死亡事

## 「安和海岸」を落石対策のメッカに(1)

故があり、最高裁で道路管理者の瑕疵責任が問われ、国と高知県に

賠償責任の判決が言い渡された事件である。この事件を契機として落石対策が本格的に行われるようになった。



（株）第一コンサルタンツ 右城 猛 社長

ポケット式ロックネットを考案したのは、須崎土木事務所の技師をされていた田中忠夫

が、昭和40年に施工された日本初のポケット式ロックネットが今も残されている。その他に、ロックシールド、ロックキーパー、S・P・C・ウォール工法、ストンガード、岩盤接着工法なども施工されている。平成21年には、田中忠夫氏の甥にあたる田中登志夫氏（田中工業株式会社社長）が発案し、愛媛大学防災情報研究センター、高知県内の建設コンサルタンツ会社、施工会社の連携で

研究開発された「ロングスパン」と呼ばれる高エネルギー吸収型のロックネットも施工された。さながら落石対策工の見本市である。世界広しいえども、ありとあらゆる種類の落石対策工を一同に見学できるのは、安和海岸だけである。ここでは、「落石対策生誕の地」であり、「落石対策のデパート」である。「落石対策のメッカ」と呼ぶのにふさわしいのであるが、名実共にメッカとなる方策を考えてみた。

（つづく）

# 明日へ 四国の視点

(161)

県道320号は高知県東部の重要路線に位置づけられている。高幡東部（須崎市、中土佐町、津野町、大野見村）のごみを処理する施設が安和海岸のほぼ中央にあるためである。

この路線では現在も落石対策工が進められているが、ネットが腐蝕している箇所や、既存の対策で強度が不足している箇所などを合めると、対策すべき箇所はまだ多く残され

正な審査をして優秀賞を決定する。優秀賞として選ばれた工法に対しては、安和海岸の一面を試験施工の場所として提供すると共に、所要の性能が保持されている期間は展示できる権利を与えるのである。

## 「安和海岸」を落石対策のメッカに(2)

象に、高知でコンテストをし、専門的知識を持った学識経験者が厳

る。優秀賞に選ばれた安和海岸に展示できることが、企業としてのス



（株）第一コンサルタンツ 右城 猛 社長

テータスとなる。試験施工に要する費用を企業がすべて負担するということにしても、展示する価値は高い。コンテストを毎年継続して実施すれば、優秀賞を獲得した落石対策工法が安和海岸にずらりと並ぶことになる。高知県は落石対策工事の費用がいまもなく、企業は、安和海岸に自社の工法が並ぶことでブランド化され、宣伝効果も期待できる。地元にはコンテストの関係者、見学

者、それに観光客がたくさん訪れるので活気づく。「一石三鳥」である。「県よし、企業よし、地元よし」の三方よしである。須崎港から久礼港まで安和海岸の沖に水上バスを運航し、海からずらりと並んだ落石対策工を見学しながら、安和海岸で捕った魚介類の「海賊料理」、土佐沖で一本釣りの「たたく」を食べると最高。想像しただけでもワクワクしてくる。安和海岸を「落石対策のメッカ」にするのが私の夢である。